

令和2年度 南部地域子ども支援 net 議事録

日 時：令和2年9月18日（金） 13：30 ～ 16：00

場 所：瀬戸内町きゅら島交流館

参加者：通所事業所、県療育等支援事業、相談支援事業所、教育関係、保育関係、保健関係、医療関係、
行政関係、県療育センター、ぴあリンク奄美 合計 43名

1. 開会あいさつ

瀬戸内町保健福祉課 眞地浩明 課長

2. 自己紹介

3. 資料説明及び事業報告

①奄美地区地域自立支援協議会（子ども部会・子ども支援 net）とは？

○ぴあリンク奄美 相談支援専門員 福崎伸悟

※詳細に関しては別紙資料参照

②県療育等支援事業報告（きらきらリレーファイルについて）

○チャレンジドサポート奄美（三環舎 向井氏）

4. グループワーク

「多職種連携。こんなことで困った。みんなでどう解決しますか？」

【地域資源の理解】

- ・気になる子どもの相談がどこにしたらよいかわからない
- ・地域で名前は聞くけれど、どういうことをしている事業所なのか説明ができない。地域内にどんな資源があるか、わからない
- ・発達が気になる子どもの親へ、療育を紹介する時にどのように紹介していけばよいか分からない

【地域資源の不足】

- ・瀬戸内町では教育相談をやっていないのが連携不足の原因では？
- ・大島地区は様々なハンデがある。教員体制なども検討しなければならない
- ・相談窓口が身近にない
- ・他の地域の資源の多さがうらやましい

【地域理解の拡大】

- ・困ったときに、どこに相談していいかわからない
- ・保護者や祖父母の障がい受容について（祖父母や親が反対して、療育に行かせてもらえないなど）
- ・保護者などへの啓蒙活動は必要
- ・小学校就学の際、保護者への就学指導の必要性もある（支援学級が向いていると思われても、保護者や祖父母が拒否してしまうことがある
- ・「障がい」という言葉が、親や周囲にストップをかけてしまう
- ・教育現場では「障がい児」を「要支援児」と言うようになってきている。「障がいの有無」ではなく、

「支援の必要性」について両親や祖父母にも理解を深めていかなければならない

【多職種連携に関する課題】

- ・進学時の課題（それぞれの認識の差をどう埋めるか）
- ・多職種多分野の横の連携が必要
- ・保育所と施設等を併用の場合の休みの共有や保護者連絡の在り方について。
- ・他の機関の状況がわからず連携に躊躇してしまう
- ・関係機関と連携するとき、どこに相談すればいいのか？
- ・状況や立場を理解した相談、誰が誰に相談するか理解しやすいよう、人材マップのようなものがあり、全員が共有できればいい
- ・学校では教育支援計画を作成している。支援計画の一覧を作ることで継続的な支援に繋げることができるのでは。（いままで支援の流れが、次の支援機関にも伝わりやすい）
- ・要支援児の理解や支援の仕方について、他職種間や保護者との共有の必要性があるが、それぞれに仕事が忙しく、話し合う場が不十分ということが見えてきた
- ・就学後、教育機関との連携の難しさを感じている
- ・教員も行政も異動があるため、継続して信頼関係を構築するのが難しい
- ・早期療育に繋げるには、検診前に保健師に繋いでほしい（保健師の立場から）

【その他】

- ・境界線の児童が増えている。
- ・家族へも同時に支援が必要なケースが増えている。
- ・リレーファイルはすばらしい。これが学校や、その後に繋いでいけるように活かしたい。
- ・家族全体に支援が必要な場合、関わる支援者は多くなるが、誰が中心になるのが良いのか考える。
- ・行政も家族と関わるべき

○県療育センター

- ・以前参加時より問題が核心にしばられてきた。地域内で連携が取れてきた感じがする。
- ・県療育センターは、電話相談も可能。ぴあリンク奄美とも連携を図るが、相談窓口のひとつとして活用してもらってもよい。
- ・乳児検診でどういうところのフォロー必要かなども教えていただきたい。

○瀬戸内町保健福祉課

- ・各グループから出された意見を聞き、町としての課題も感じた。
- ・瀬戸内町として子どもについても窓口を一つにして、一体的に取り組める包括支援センターが必要と考え、設置することになった。10月より看板を掲げ、サポートを開始する予定。
- ・本日の意見・提案は瀬戸内町としても受け止めて、奄美大島全体の問題としても共有していきたい